

平成21年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価) 前期自己評価<9月末のでの状況>

教育目標 豊かな教養を持ち、産業界の発展に寄与できる実践力のある、人間性豊かな工業技術者の 育成をめざす。

経営方針 本校が果たすべき使命を達成するため、専門職として研究と修養に励み、組織的な実践活動を通して教育目標の具現化に努める。

めざす学校像 ものづくりを重視する科学技術系工業高校 ～時代を生き抜くたくましい創造型工業技術者の育成～

重点目標 ①学習指導の改善 ②工業教育の充実と活性化 ③豊かな人間の育成をめざした生徒指導の確立 ④活発な生徒会活動の推進  
⑤進路指導の充実 ⑥健康と安全管理の徹底 ⑦環境教育の充実

A: 達成  
B: 概ね達成  
C: やや不十分  
D: 不十分

担当	年度目標		評価		総合評価(平成21年12月予定)				
	重点目標 (実践事項)	評価指標 (数値目標等)	達成状況 (9月末まで)	自己 評価	課題と改善策 (中間総括)	評価項目	生徒	保護者	教職員
1 教務	①文武両道の特色ある学校づくり ②「新学校構想」の推進・実践を通じた各学科・各教科・各分掌のコンセプトの明確化 ③キャリア教育実践プログラムに基づく学びの確立と、生徒の学びの目標の明確化 ④授業時間の遵守や学ぶ姿勢啓蒙を通じた、学びの環境づくり ⑤学習の動機付けの工夫と継続的な授業改善と生徒が満足感を覚える「わかる授業」の確立	・研究授業、授業評価学期1回以上実施 ・生徒の授業満足度80%以上 ・チャイム着席率99%以上を継続 ・家庭学習時間調査各学期2回実施 ・教職員向けIT研修を年2回開催 <学年> ・朝学習の計画的実施率100%(1年) <教科> ・漢検2級15名、準2級40名以上(国語) ・英検2級複数名、準2級10名以上(英語) ・生徒実験年3回以上(理科) ・実験・実習各クラス年5回以上(家庭)	・授業評価は9月に実施。 ・授業理解度88.7%により、満足度達成と判断。 ・チャイム着席は98.9%とほぼ達成。 ・家庭学習調査前期中間実施、前期期末実施。 前期中間調査では、日常の学習において「ほとんどしない」が59.3%と残念な結果であった。 ・IT研修は2回実施。 <学年> ・朝学習は全クラスで計画通り実施できた。 <教科> ・漢検2級1名、準2級10名合格 ・英検2級1名、準2級3名合格 ・生徒実験1回実施(理科) ・実験・実習2回実施(家庭)	B	・昨年度後期と比較し、評価の向上に大きな変化は見られなかった。 ・教員は授業を大切に、「生徒の理解度」や「わかる授業」に工夫していると生徒は評価している。 ・生徒の自己評価の設問「授業内容を理解していますか。」においては、向上が見られなかった。指導上の工夫が必要である。 ・授業内容の理解度の向上を図るため、予習復習や適切な課題の設定など、家庭学習を充実させることが必要である。	「新学校構想」の実践を核にして、学校が活性化している。			
2 工業	①数・理・専門教科の融合教育の実践と、より系統的・効果的な教育内容・方法の構築 ②接続教育機関や企業との連携を深めた課題研究の充実、全国的な発表会やコンテストに対応できる力量の育成 ③3年間を見通し体系化された資格取得への取組の推進、教育課程と連動した学力の形成 ④小・中学生・保護者・教員との交流と教育連携を深める取り組みの推進と工業教育の魅力とものづくりの楽しさの啓発 ⑤実習機械等の保安全管理の徹底 ⑥「特色ある高校づくり推進事業」の推進	・数学、理科、工業科相互の研究授業を学期1回実施 ・安全点検を週1回実施 ・各科の特色を活かしたものづくりへの取組 ・各種競技会やコンテストで入賞を目指す ・資格取得への積極的挑戦と、合格率100%を目指す ・地域貢献の公開講座を各学科1回実施 ・中高連携事業を3つの学科系ごとに、年1回実施	・数と理は「工業数理基礎」を通して連携を推進。 ・安全点検は実習開始前に実施。 ・特色を活かしたものづくりは、各科とも積極的に取り組んだ。 ・前期開催のものづくり大会やコンテストの成績は、県入賞⑤・東北入賞①・全国入賞④。 ・資格取得に積極的に取り組んだが、目標未到達。 国家資格17種・検定試験14種目を受験。合格率約60%。 ・各科ともものづくり教室(公開講座)を8月に実施。 アンケートで好評の声93%。 ・中高連携事業は電子・情報系で1回実施。	B	・専門教科と数学・理科との連携を図るため、学習の順序性などの検討を進めていく。 ・各実習室の清掃をこまめに行い、整理整頓を心掛ける。 ・特色ある取組は今後も継続していく。 ・後期開催の各種大会でも、上位入賞目指し頑張りたい。 ・資格と教育課程との関連について、今後検討していく必要がある。 ・更なる地域貢献を目指し、活動していく。 ・各学科系としてのねらいを明確にした取組を検討したい。	工業科と数学・理科の授業が関連づけられ、授業が実践されている。			
3 生徒指導	①学年・分掌・学科間の共通理解に基づく組織的指導体制の確立 ②形から琴線にふれる指導を展開、基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成 ③校内外の巡視や環境整備による事故発生防止 ④集団活動・行動を通じた互いの個性の認めあいと、協調しあう心や環境を大切にしたい思いやりの心の育成、社会的適応能力の育成 ⑤生徒の自主活動の積極的支援や部活動の振興、生徒の個性の伸長と自立心の養成 ⑥交通安全に対する指導の徹底を図り、特に自転車通学の指導に努める。	・遅刻者延べ人数、前年度比20%減 ・自転車の二重ロック装着率100% ・全国大会出場団体4つ以上、個人7人以上 ・生徒週番による月1回のクラスへの改善指導の実施 <学年> ・学校生活の年間充実度、生徒アンケート80%以上(2年)	・遅刻者延べ人数は、前年度比28%減で目標達成。 ・遅刻常習者は、学年と連携し、個別指導の実施により成果が現れている。 ・自転車の二重ロック装着率は50%。交通安全委員による呼びかけ等を実施しているが目標未達成。 ・全国大会出場団体4つ、個人3人である。 ・個別には行なっているが、クラス全体の改善指導実施の方法は現在検討中。 ・校内外の巡視の徹底により事故は大幅に減少。 <学年> ・12月実施予定の生徒による評価で把握。	C	・遅刻については、これから冬に入り増加することが予想される。風紀委員会を中心に更なる呼びかけ、遅刻カード活用の徹底、学年との連携を行なう。 ・自転車の二重ロックについては、交通安全委員による週番を実施し、呼びかけチェックを行い学年と連携し個別指導を実施していく。 ・部活動においては、今後とも資金面等でバックアップしていく。 ・総合指導、週番活動等により、クラスの状態の把握を行い、クラスごとの改善指導を行う。	琴線に触れる指導をとおして、生徒の規範意識を育てている。 集団生活をとおして、個性を認め協調しあう心を育てている。 生徒が主役の生徒会行事として、企画・運営されている。 部活動と学業の両立をめざした指導を行っている。 交通安全、特に自転車通学のマナーアップが図られている。			

担当	年度目標		評価		総合評価(平成21年12月予定)				
	重点目標 (実践事項)	評価指標 (数値目標等)	達成状況 (9月末まで)	自己 評価	課題と改善策 (中間総括)	評価項目	生徒	保護者	教職員
4 進路 指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「キャリア教育実践プログラム」並びに「科目選択ガイドブック」「キャリアガイダンスブック」に基づく体系的・計画的な指導の充実</li> <li>② 自分の個性や適性等を見出し、的確な進路選択ができる進路指導</li> <li>③ 早期の進路情報の収集と進路データの整理、効果的な相談活動の推進</li> <li>④ 進路部・教務部・各学年・教科が連携した学力分析と、進学を目指した効果的な学力向上策の推進</li> <li>⑤ 進路内定後の学習意欲を喚起する対策のさらなる検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率・進学合格率100%</li> <li>・進路ガイダンス、講話などを各学年3回以上実施</li> <li>・二者面談を各学年とも年2回以上実施</li> <li>・センター試験各科目正答率昨年度以上</li> <li>・教育連携先の入学前教育の100%実施</li> <li>・学校外講座への参加、生徒一人年間1回以上</li> <li>・進学先説明会、企業見学会等への参加率100%(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月12日現在 合格者/希望者(率) 就職64名/74名(87%)、公務員7名/12名、進学30名/143名</li> <li>・進路ガイダンスは1年3回、2年2回、3年3回実施。</li> <li>・二者面談は1年2回、2年2回、3年3回実施。</li> <li>・センター試験の出願者59名</li> <li>・入学前教育の実施計画を検討中。</li> <li>・学校外講座へ1回以上参加した生徒の割合63%。 &lt;学年&gt;</li> <li>・3年生の参加率95%</li> <li>・1、2年生も進学先説明会、企業見学会等に積極的に参加している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことのない厳しい求人難の中、関係者協力して不合格者のフォローを確実にし、全員内定を目指す。</li> <li>・国公立大の希望者が例年以上に多い。合格の指導はもとより、併願校など適切なホロー指導にも力を入れる。</li> <li>・次年度は3学年の前期末試験までの成績で推薦会議がおこなえるような年間行事計画を提案したい。</li> <li>・年間を通しての事務補助員の配置を望みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実したキャリア教育が行われている。</li> <li>生徒の自分さがしを支援している。</li> <li>希望する進路へのチャレンジ精神を育てている。</li> <li>希望する進路別の学力向上策がとられている。</li> </ul>			
5 総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会参加活動や地域貢献活動を積極的な推進、実体験による望ましい人間関係や社会性の育成</li> <li>② 安全管理マニュアルの理解と施設・設備の安全点検に努め、安全な学校づくりを推進する。</li> <li>③ 目的意識を明確に持った環境教育・保全活動への取組</li> <li>④ 県環境保全率先実行計画に沿った、やまがたECOマネジメントシステムの実践への全校的取組</li> <li>⑤ 地域、保護者と連携した環境保全活動への積極的取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA関係会議(総会等)での出席率70%台</li> <li>・水道光熱費・印刷費の対前年比3%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会の保護者出席率は66%、目標到達せず。</li> <li>・「植木まつり」及び「花笠まつり」後の清掃ボランティア参加は、計296名で前年比6.5%増。</li> <li>・1年生は全員が馬見ヶ崎河川敷き清掃(地域奉仕活動)に参加。</li> <li>・安全管理マニュアルを職員会議で提示した。</li> <li>・BDFの普及啓発活動として、地域のイベント活動等に計4回参加。</li> <li>・6月～9月の電気使用量は対前年比1.34%減。</li> <li>・エコオフィス運動として、エコスタイル、冷房温度28℃設定、エコドライブに取り組んだ。</li> <li>・夏季休業中に、保護者、生徒、職員が一緒になって駐輪場および教室腰壁のペンキ塗りの勤労体験学習を実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動を充実し、出席率向上を図る。</li> <li>・社会参加活動や地域貢献活動、保護者と連携した活動では成果が残せた。</li> <li>・県環境保全率先実行計画に沿った取り組みを実行したが、主体的意識で実行した職員はまだ少ないと思われる。</li> <li>・「親の気持ちを語る会」への保護者の参加は、一年生が増えたが、3年生が少なく、運営方法に工夫が必要。</li> <li>・安全管理マニュアルと5S運動が、有機的に結びつく活動になるように取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会参加活動や地域貢献活動を推進し、社会性を育てている。</li> <li>生徒は安全・安心な学校生活を送っている。</li> <li>ゴミの分別回収や、ものを大切にす環境意識を醸成している。</li> <li>PTA関連の行事が充実している。</li> <li>教職員は来客者や保護者に対して、ていねいな対応をしている。</li> </ul>			
6 保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 清掃を通じた環境に対する美化意識と物を大切にする心の育成</li> <li>② スクールカウンセラー事業の継続発展、教育相談の充実と精神面の指導・管理</li> <li>③ 食育による健康づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MS委員会を月1回開催</li> <li>・総合評価A段階全校生徒の20%以上(新体力テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MS委員会・スクールカウンセラー事業共に予定通り実施。</li> <li>・体力テストは701人中166人が総合評価A段階、割合は23.7%で目標達成。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期も、生徒・担任のサポートになる活動を目指す。</li> <li>・体力テストは、特に1学年が13.5%、全学年女子が13.2%と割合が低いので、運動の機会を逃がさぬように継続指導を行う。</li> <li>・清掃活動の充実を評価する方法を考え実践したい。</li> <li>・食育に関する活動を計画実施したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活に関する相談がしやすい環境づくりに努めている。</li> </ul>			
7 図書 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ホームページを活用した情報発信の推進</li> <li>② 図書館機能の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新月1回以上</li> <li>・生徒の図書貸出し、年間一人平均3冊以上</li> <li>・図書館だよりを年5回、図書館報「そら」を年1回発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新=15回</li> <li>・生徒の図書貸出し一人平均2.11冊</li> <li>・図書館だよりを3回発行済み</li> <li>・図書館報「そら」は年度末に発行予定</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形で情報を発信していく工夫を継続する。</li> <li>・生徒の図書利用が増加するように啓蒙活動を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の情報発信に努め、教育内容を保護者と共有している。</li> </ul>			

山形県立  
山形工業高等学校  
学校評価委員会  
平成21年10月

学校関係者評価
実施日 平成22年2月予定
意見・要望・評価等

学校関係者評価
実施日 平成22年2月予定
意見・要望・評価等